

令和4年度 第4回鞍手町総合教育会議 議事録

- ・日 時 令和5年1月27日 午後2時30分～
- ・場 所 鞍手町役場 応接室
現地視察 剣南小学校、旧鞍手北中学校
- ・出席者 町 長 岡 崎 邦 博
教育長 外 園 哲 也
教育委員 藤 井 睦 彦
教育委員 都 甲 千恵子
教育委員 山 田 伸 子

(事務局)

総務課長 高 橋 奈美江 庶務管財係長 長 浦 良
教育課長 森 永 健 一 学校教育係長 田 中 啓 介
教育環境整備係長 村 岡 崇

○高橋総務課長

改めまして、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
また、先ほどは、現地の南小学校と旧鞍手北中学校の方に視察という形で、現地を見ていただいたというところで、そのあとの会議ということで、また忌憚なくご意見を聞かせただければなと思います。
それでは町長の方からあいさつをお願いします。

○岡崎町長

まずは、私がコロナにかかったりして、また、天候が不順になったりということで、ちょっとのびのびとなりましたけど、皆さんには本当にお忙しい中、今日、南小学校、そして鞍手北中学校跡地を見ていただいてありがとうございます。
こんなに寒い、また風の強い天候ということは想定外でしたが、皆さんにはつぶさに現状を見ていただけたのじゃないかなと思います。
私自身、それこそ、この小学校統合、もちろん中学校統合にしてもそうですが、議員のときからずっと関わってきておりますし、私自身の思いもあります。
まずは、子どもたちが本当に通いたくなるような校舎をつくりたいという思いが強くあって、ずっとここ約10年近くかかりましたけども、現状に至っています。そういう思いもありますので、そういうことも勘案していただければと思います。

○高橋総務課長

ありがとうございます。引き続きまして、外園教育長からごあいさつをお願いいたします。

○外園教育長

第4回ということで教育委員会の方も臨時教育委員会等々開いていきながら、慎重にあり方検討委員会の提言を受けて取り組んでまいりました。

今日、現地を見て、町長さんの思い等々も聞いてまいりましたので、これを受けて最終的に判断をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○高橋総務課長

ありがとうございます。それではさっそく、議題のほうに入っていきたいと思っておりますけれども、実際現地のほう見に行かれてですね、委員さん方の率直なご意見等を出していただけたらいいのかなと思っておりますので、お1人ずつ、どうでしょうか。

○岡崎町長

これは、グーグルマップなのですが、同じ縮尺になっています。縮尺というのは、50mというのがついているので、同じ縮尺の中でのグーグルマップの写真になっています。

ひょっとしたら今日行けない、雨が降ったりして行けないことも想定していたので、一応、これは作ってみました。よければ見ていただきながら、お話をさせていただければと。

○高橋総務課長

町長のほうから地図をご提示いただきましたので見ながらですね。現地とちょっと見比べながら。

○岡崎町長

中学校のほうがちよっと入らなかったから、ちよっと合わせてつくっておりますけど、縮尺に変わりありません。

○都甲教育委員

今、南小学校と北中跡地を見てきたのですが、南小学校の今の校舎の3倍分ぐらいの校舎を造る予定と言われたのですが、プールを校舎の一部に入れたりとか、そういう工夫をすれば、今のグラウンドの敷地で建てることは可能なのではないかなという気がしました。

それで、その駐車場の工夫とか、そういうのは、中のことは専門の方をお願いして、配置とかを考えていただければ出来ない敷地ではないのではないかと感じました。

鞍手北中跡地は確かにその敷地的には広いなという印象はあったのですが、ちょっと保護者目線からして1番心配なのは坑道の問題ですね。やっぱりそういうところで不安があるっていう、そういう目で見えていたからかもしれないのですが、体育館のところの階段とかすごいひび割れとか、そういうのがすごく目について、やっぱりその地盤に対するその不安がちょっとさらに一層深まったかなという印象です。はい。以上です。

○山田教育委員

町長さんが通いたくなる学校と言われたのですが、子どもたちにとって1番大切なことはまず安心安全な学校じゃないかなと思っています。

都甲委員が言われたように、幾ら広くても、そのリスクがあるところに校舎を建てるということはやっぱりどうしても承服しかねるというのが正直な気持ちです。

それと広い土地も確かに魅力ありますが、私は、子どもたちがいろんな体験活動をするときに、周りの環境はすごく大切だと思うし、まずは、歩いて通えるということが小学校では1番大切じゃないかなと思います。

朝、自分の足で15分から20分歩くことで、脳も活性化し体の健康になるし、まず、歩いて通えるということが1番だと思っているのですが、どうしても再編するとスクールバス等でいかななくてはいけない子どもたちが出てきますので、南小だったら、3分の1ぐらいの子どもたちが歩いて通えますし、北中後となると通学路の問題とかもあって、町長さんはスクールバスを使えばいいって言われましたけど、私は、小学生は絶対歩くべきだと思うし、歩くことが休み時間とか昼休みとかに遊ぶことよりも、断然運動的には多くなってくる。

それから1番これからの教育を考えたときに、小中連携というのは絶対必要条件というか。もう小中連携というところは本当に大切、これからの教育にとって。

スクールバスがあるので直接行ったりとかオンラインとかいう方法もありますが、やっぱり距離というのもすごく大切じゃないかなと。すぐに行って例えば中学校の先生が出前授業してくださるとか、小学校の先生が中学校に行って卒業した子どもたちの様子を見るとか、日常的な連携が1番大切であって、イベント的なことであれば、オンラインとかスクールバスを使っただけの交流ができるかもしれませんが、日常的に連携していくということが大切ですし、そのためには距離というのは、近いというのは大切になってくると思います。

子どもたちが学校に来たときに、帰りたくなる学校と言われたら、西区のあそこに建つよりは絶対、南小の鞍手町の一番中心地であるところに、私は古月ですが、古月の子どもたちはすごく町の学校に行きたがって、心うきうきする

のじゃないかなと思います。

例えば鞍手町に住みたいって言われる方たちも、小学校、中学校、病院があって、役場があって、中央公民館がこの一帯にあるということになると、やっぱりすごく、これからも住まわれる方も多いと思うので。

町長さんは長い目を見たときに、北中跡に校舎を建てると、そこが起爆剤になって、点から線への鞍手町の発展につながるのではないかなと言われましたけど、まだ、その点を中心に広がっていくっていうほうがより現実的じゃないかなと。

私は、まずは1番に地盤が心配。

私自身、子どもたちも3人北中出身ですけど、あそこの下に坑道があって、坑道があったらしいよと話をすると、そんな危険なところに行っていたのという感じで、びっくりしていました。

私自身も、今日も柵がしてあるところもあったけど、私たちが行っているときは何もなかったけど、今からもうずっと何もないという保証は何もないわけで、そういうリスクのあるところに、大金を使って公共の施設を建てるということに対して、やっぱり承服しかねるというのが正直でございます。

○藤井教育委員

今日、南小学校と旧鞍手北中学校を見たのですが、私も大体、何回も見て見て大体分かったのですが、旧北中学校の今日見てみまして、いろいろ皆さん方も感じたのだけど、場所的には、敷地とかいろいろというのは、今言うように、ちょっと大き過ぎるぐらいの敷地があるというのは、それは確かにメリットがあるなというのは思うのだけど。

確かに、あんまり大き過ぎると。子どもたちの安全とかいろいろ見たときには、管理がしにくいんじゃないかなっていう気はしました。

それと、北中跡は、折尾愛真が使用していますね。久しぶりグラウンドを今日見せてもらったのだけど、きちんと整備されているし。愛真が今までそれだけの努力をされてきたことは、我々がかかってやらなきゃいかんと思ったんですね。やっぱり愛真はここでこれから先、そういう形で利用したいなという気はあるのじゃないかなという気はしていますけどね。それを、やっぱり無視は出来ないなと私自身も危惧している。

全体的に確かに、学校的に整備しようとしたときには、土地的に物すごく余裕があるという、確かに分かります。

それから反面、南小学校の場合は、土地的にはちょっと狭いかなという感じはするのだけど。整備をすると小学校としては十分の敷地があるのじゃないかなという気はしておりますし、環境的に見てみると、北中の近辺というのは工場とかいろいろ建っているし、いろいろありますけど、環境的にはやっぱり南小学校のほうが環境的にいいと。

それともう1点、私は考えてみたのは、旧北中学校の跡は、あれを整備してい

くとしたら、相当なお金がかかるのじゃないかなと。南小学校のほうを整備してもそうお金はかからないのじゃないかなという気がしています。

そういう金銭的な面から見たときには、やっぱり南小のほう金がかからなかったら金のかからないほうがいいのじゃないかなという気もしていますけど。確かに西区の信号のところとか、それから北中跡を下がってところの横の歩道とか狭くてですね。

この状況で、やはり学校を開校したって、これは、私は安全的にはもうものすごく問題があるなど。

それで猪倉からずっと西区のほうに入りましたら、完全な2車線ではないですね。歩道も狭いし、こういうことをしたらまた相当なお金がかかるなど。金銭面からしたときには、南小学校の方がかからないかなという気がしています。

南小の周辺をちょっといろいろ整備してやると、まだまだ広くなると思いますが、そこまでは今のところは、要らないのじゃないかなという気はしていますけどね。

それを、お金をかけてどうするかというのがあるのだけど、そうお金はかからないんじゃないかなという気はしていますけどね。

それと1番私は今日見てひっかかって、先ほど言いましたけど、愛真があれだけ使っているのは、やっぱり人情的に見たときには、あれを追い出すのは、ちょっとかわいそうだなという気がしました。

それと、前回も言いましたのですけれど、やっぱり中学校と小学校の連携っていうのは、皆さん良く知っていると思いますが、飯塚近辺ですね、嘉穂とかいろいろなところは、小中一貫はほとんどしているのですよね。中学と小学校を近くに建ててしまうとか。

そういうことを連携的にみてくると、やっぱり旧北中というのちょっと遠過ぎる。距離的に。昨年まで、中学と小学校の連携を、県の指導を受けまして3年間やってきたわけですね。それで最終的には、南小学校と今の鞍手中学校という形で連携とったらわりかしに。あれから鞍手中学校に先生たちが移動してきたんですね。それも時間あんまりかからない。それで時間的に計画どおりに出来たという。

そういう面も見たときには、やっぱり近くじゃないと駄目。そういう授業というのやっていって、学校の先生たちが1番気を使うところですね。

そういう面を見たときには、北中は遠いかなと。

私も、いろいろ先生方との話も、時間ありましたからちょっとさせてもらいました。

校長先生にも、ちょっと聞いてみましたけど、やはり先生方というの、やっぱり中学の近くがいいということになるのですね。

離れたらどうしても子どもたちの連携がとりにくい。できれば近くのほうがいいですよ、という話も全部聞いていますし、そういうものを見たときに、南小学

校を何とかきちん小学校として整備して、私はその方がいいかなってという思いは強いですね。

今日ちょっと見てみまして、北中学校の跡地を、町長はどう考えているかわからないけども、あれを色々とするというのは、相当のお金がかかってくるのじゃないかなという気がしておりますけどね。

できるだけ、お金は天からもらったお金でないし、ある程度のことをやっていかないかんというのがありますから、そういう面も今後見ながら場所的に決めていった方がいいんじゃないかなという気がしております。以上です。

○外園教育長

まず、学校は安心安全が第一。そういうところで、先ほど山田委員さんも言われましたけど、スクールバスは確かに便利がいいかもしれませんが、やはり友だちと一緒に歩いて帰る。その中で、やっぱりけんかもするいろいろなことあるかもしれませんし、植物とかですね、自然のものとか、そういったものに触れていきながらということは大切だと思います。

また、南小だったら1番多い学校ですので、バスも少なくなくて済むと。中学校と同じ校区ですから、特に小学生は低学年が1人でバスに乗るというのは、練習しないと無理だと思いますし、また上学年とかですね中学生と一緒にバス停で乗るといことになれば、ある程度安心もできるというところ。安心安全が1番。

2番目に、小中連携の問題があります。遠くてもできるというものじゃなくて、やはり近いから移動ができると。

どうしても北中からの移動となると、移動するのに時間がかかったり、またマイクロバスを使ったりと、こういうことになりますし、一小一中になります。私は中間で、中間北中と中間北小学校。ここは一小一中なんですね。

一小一中の連携がものすごく大切であるというのは、向こうはほくほく夢ネットといって、保育園から15年間かけて子どもを育てると。こういうことをしています。

実際に中学校に来たり小学校に行ったり、そして、小学生が中学生に憧れる。逆に今度、小学生から憧れることによって、中学生の自尊心を高めると。

こういうような効果というのは、私、中間中学校で経験しておりますので、この教育効果というのは小中連携というものがすごく大きい。

それと、不登校問題があり、今どんどん増加傾向にあります。本中学校でも倍以上に、2、3年前から比べると増えております。

そういったことも考えますと、お互い行き来していきながら、先生方も顔を見ていながら、また、小学校と中学校の先生がお互い情報交換をしていくというようなことも近くだったら一小一中ということで、やりやすくなります。そういった面から。

それと第5次総合計画にも出ておりますけど、コンパクトシティというような

ことも出ております。最初私も、南小のほうでと思ったのですが、どうしても引っかかるのが、費用の面ですね。費用の面で、どうしても在席する児童の人数分が減るといふようなことでしたけど、この間、嘉麻市に係長と課長が行きまして、そういうことなら、同じようになるような方法等も聞いてまいりましたので、そういった費用の面からも考えても、南小がいいのではないのかと。

北中学校は確かに広くて、いろいろやろうと思ったらできるのですが、やはり坑道があるというのは、保護者にとってはものすごく不安の大きい要素になり、コンクリートで埋めて、穴を埋めればいいのかもかもしれませんけども、やはり費用もかかると思います。

構造も、入り口から斜めに掘っておりますので、流れていくのではないかと感じております。

以前、一人の先生が落ちて、トラック何台か入れて、それから7、8年後にまた、別の先生が落ちて、やはり土を入れるということもありましたので、坑道に対する不安というのは、もう保護者の方はかなりあるのではないかと感じます。以上です。

○岡崎町長

はい。今委員さんの方からですね、いろんなご意見をいただきました。

いろいろと、それぞれの思い、特に、坑道があることによる、不安。安全安心が確保出来ないのではないかっていうようなこと。あとは小中連携に対する距離感の話だということで、まだまだたくさん話しありますけど、最終的に校舎をつくる場合に南小につくるとすればどういうふうな校舎をつくりたいのか。

子どもたちにとって、通いたくなるような、小学校はどのようなものを想定されているのか、その辺についてもちょっとお聞きしたい。

○山田教育委員

私、光陵小学校とか、宮若西小学校に、最近建った学校に行く機会があったのですが、体育館は校舎の中、プールも校舎の中っていうふうに取り込んで一体になっているのが今の校舎かなと思っています。

コの字型でも、中庭に人工芝みたいなのをひいてあって、外に靴を履きかえなくても遊べる。南小にあれだけの面積があれば、コの時にしても余裕を持って建てられるんじゃないかなと思います。

小学校はそんなに広い土地は要らないんです。中学校の場合は部活とかがあるから。サッカーとか野球とかテニスとか、それなりの広さが欲しいけど、小学校は、安全管理とかあるから、そこまで広くても活用し切れないし、管理も大変だし。

安全な土地ではないというのがまず1番ですけど、たとえ安全な土地でもあれほどの土地はいらなないかなと思います。

○高橋総務課長

町長は、子どもたちが通いたくなるような学校ということで、専門的な観点になるので、実際に保護者として、また、実際に現場でお仕事されていたというところで、いろいろ意見があるのかなと思います。どうでしょうか。

○山田教育委員

あわせて給食センターも一体で、そのまま給食室からエレベーターで上にあげられたらいいなど。私の地元がその方式で、給食が自校給食で、給食室に見学に行ったりとかもしたことがありますし、それも一緒のほうがいいのじゃないかなと思います。

○都甲教育委員

宮若西小学校は中に入っていますよ。校舎の中に給食室。

西小と西中ですけど、センターもあるけど、センターは光陵中のすぐ横にあります。

○外園教育長

嘉麻小学校も中であって、そこから見えるんですよ。食堂があるし、自分たちが食べるものを作ってくれる、働いている人の姿も。作っているところを見て、やはり食べ物に感謝するということは食育にもつながるので、別で食べて、作っている人の姿も、匂いも、形も分からずに食べるのと、やっぱりガラス越しに作っている人の顔を見て、そして、こういうふうに頑張っているんだなというふうに。見ればまた食育の観点から、教育的効果は上がってくると。

今までのセンターじゃなくて、やっぱり校舎の中で、作っているところが見えるような、それはもう食育として随分よくなってくると。

○藤井教育委員

給食センターね。私は芦屋の給食センター、遠賀の給食センターも見に行きました。確かにご飯を炊くのも、学校に持っていくこともきちんと出来てですね。それで、魚などの入る所、それと野菜が入ってくる所と別々ですね。きちんと分けて。

見てみたらもうすごいですね。流れ作業で。ああいう給食センターは欲しいなって思っていて。町長と前に話したことあるけど、鞍手町の給食センターはちょっとかわいそうだと私言いましたけど。それと、できるだけ給食センターを持っているところは地産地消でやろうという形で自分たちの地元で使えるものは使うという形を、これは農家との連携ですね、農業との連携。どうするかっていうのがあっていいでしょう。確かに今の給食センターっていうのは、もうすばらしいと。見たらもうびっくりするね。衛生的に出来て、全部流れ作業を行って。人の移動

があまりないでしょう。

それと町長に話したいのは、小中連携が良いと前から言っているのですが、何で良いかと言ったら、1番最初にですね熊本の産山村というところが、子どもたちが少ないということで小中連携を1番最初作った。この近辺で1番早かったのですね。

そこに行って先生たちに聞いたら、先生たちはやっぱり小中で中学校の生徒達は小学校の子どもたちを面倒見るといふよね。全部ね。

それで運動会も、あそこは少ないから小学校と中学校で一緒に運動会するっていうね。それからお兄ちゃんたちと一緒に運動会ができると子どもたちがものすごく喜んで。子どもたちの環境的なものっていうのも全部変わってしまった。それと、もう一つ山口県に中学校と小学校と小中連携が出来ているのを見てきました。そこの校舎は全部木材が使ってあって、休み時間何しているかと思ったら、全部拭いているのですね、雑巾できれいに。そこがもう一つ良かったのが、図書館がある。学校の中に図書館。図書館を何でここに作ったのか聞いたら、これは地域の人学校に出てくるから、子どもたちとの連携が出来ますという話ね。そういうところを考えて作っている。

そういう形にしてくと全部しつけの問題に絡んできたのですね。あそこの首長さんが全部そこまで考えてこれをつくったのですかと言ったら、はいと。

私は鞍手で1番やりたかったのは、小中一緒に学校つくりたい。今、筑豊地区は、義務教育学校というのをしているのだけど、鞍手は一緒になったら子どもの数が多いので義務教育学校はちょっと難しいですね。子どもの数から見たら少ないところはそういう形でできるが。これは出来ても、小中一貫校をやりたいなど。これは鞍手中学校の前の土地が狭いということ。あそこはちょっと無理かなと判断したのですけどね。そしたら南小学校をもうちょっと少し整備的なものにお金がかかるか分からないけど、そう大してかからないだろうけど、あそこを整備し、きれいにしてしまったら中学校が横だから、いろいろ連携というのは、そういうものも判断したときに、私はやっぱり南小学校の方がいいかなっていうのも一つの判断もあったわけですね。

それと、今、宮若などの先生たちは鞍手に行きたいなという先生が多いわけですよね。何でかというたら、やっぱり雰囲気的とかいろいろなものから見たら鞍手に行きたいですねっていう。それであんまり学校の話話を話すと鞍手に行きたくなるという先生も少なくなる気がします。

私もいろいろ学校を見せてもらって勉強させてもらったんですけど。この近辺は川崎町も一貫校にしとるんですね。今1番新しいので1番いいのは、香春町も校舎を建てていますね。これも教育学校をしていますけど、香春町も町長も一緒。校舎を建ててしまってますね。飯塚も市長さんが、やっぱり小中連携が1番いいなど。それをやらないと子どもたち育たないと。そういうことから見てみると、飯塚市がやっぱり小中一貫校にしていっているところが多いんですね。嘉麻市が

教育学校やろうと作り出しているところです。

そういう面から見たらやっぱり小学校と中学校っていうのは、やっぱり近くに置くのが1番いいのかな。

そういうことを私も見て、今日この時間的にあんまりないからいろいろ話は出来ませんが、私自身もいろいろ経験を積ませてもらいまして、過去の面から見てみたら、やっぱり鞍手町の最終的っていうのはやっぱり小学校中学校は近くに欲しいなというのが私の考えですね。そうすることによって、いろいろ学校の取組に対して。反復学習をやり出しても、私たちはやっぱり先生たちですね、意識改革ができれば1番いいと思うけども、何でそれを町長にお願いしたい。これはやっぱり、今、6小学校ありますけど、先生方が一生懸命、みんな一緒にレベルを一緒に合わそうと思って一生懸命やってもらっています。こういうものを見たときにやっぱり先生方のやる気は、大きな効果があるんですね、目に見えない大きな効果があります。

それでそういうものを今後考えて、学校づくりをしてやらないとだめじゃないかなと。先生方にちょっと建つ位置を聞きました。そしたらやっぱり中学校の近くがいいですねと。小中一貫ができれば1番いいですけどって言ったけど。それが出来なかったら近くのほうがいいですという言葉をいただいています。

あなたたちの思いも、何か通じるような形で小学校つくってほしいと、頑張りますという話はしたんですけどですね。

○岡崎町長

今、山田委員さん、そして藤井委員さん、都甲委員さんから、どういう小学校をつくりたいというお話を聞かせてもらいました。

概略どういう学校がいいかっていうよりも、小中一貫とか、小中は近いほうがいいということとか、給食センターも一帯がいいだとか。あとは例として、光陵小学校がありました。中には、山口県でしたか図書館がというような小学校だったのでしょうか。というようなところで、それは、地域の人だってそういうことが出来て、連携ができるからというようなことでした。

光陵小学校が、校庭の面積はどれぐらい。視察に行った資料は。校舎の延床面積とか、建物とか、自分は全然見ていませんので。

○山田教育委員

光陵は横にこども園がありますので、小中連携はないけど、保幼小連携というところで。

○藤井教育委員

光陵小学校は特別支援の子どもたちのクラスを作っていますね。それでその学校の近くに、学童がありますので。子どもの数は、鞍手全体からみたら少ないで

すよね。

○森永教育課長

光陵小学校の敷地面積が3万4,686平米。建築面積は4,839。延べ床として7,804平米です。それが、体育館とプールまで入っての分ですね。児童数は300弱くらいです。

○村岡教育環境整備係長

学年は、うちは今一学年4学級で考えていますけど、光陵小学校は2学級だったですね。

○山田教育委員

宮若は、すべて木をふんだんに使った校舎ですね、どこも。

○岡崎町長

光陵小学校は鞍手町の半分弱ぐらいの生徒で、面積は3万4,000平米ぐらいで。あそこは平坦で段差はなかったと思う。

だから、真っすぐなところで、それだけの面積をとって、校舎なり、体育館も併設して、給食センターも恐らく併設して作っているということだと思います。

校舎は3階か2階か、ちょっとでこぼこがあったような気がしたんです。

○森永教育課長

教室棟が3階で、体育館のところは3階部分はないんですね。

○岡崎町長

やっぱり、敷地が平坦なところにつくる分には、いいでしょうけど、少なくとも、南小にしても、北中してもそうだけど、段差があるというのが一つあって、つくるグラウンドの面積自体はかなり狭い。今校舎が建っているところの半分ぐらいしかない。半分合わせて3万8,000平米かそんなところ。

下に校舎をつくって上に体育館つくるといって、本当に9千平米の校舎が出来て、なおかつ駐車場だとか、保護者の待機場所だとか、見てのとおり、周辺道路も狭いですよ。そういう待機場所とかが本当にとれるだろうか。なおかつ崖条例で建物が建てられる所っていうのは、東側に寄らないといけない。だから、それは相違工夫すればどうにかなるとは言いながら、その段差もひよっとすれば、校舎の中に、階段をつくりながらの校舎にならざるを得なかったりだとか、今のグラウンドの中だけでね、9千平米の、給食センターの体育館も含めて、全てが完結するようになるかどうかっていうのは、なかなか僕は難しいと思います。

教員の車が校舎のところに停まっていたけど、プールから東側のところに

駐車場をつくれればいいというようなことがあると思いますけど、少なくとも、スクールバスが停まる所はないので、中学校の跡地かどっかにとめて、出入りすることになると思います。

現実的に考えたときに、小中一貫はもちろんいいと思いますけど、光陵小学校から中学校にどれぐらい距離が離れているかちょっと分かりませんが、どういふ連携をとっているかって。

小中一貫がいいとすれば、恐らく、どうにか何とか連携はとっていると思いますが、そんなに近くに中学校があるようにも思いません。

だから、その教育的効果っていうのは小中一貫は認めるところでもありますし、むしろ中学校をつくるときに、私は小中一貫をずっと主張していました。

残念ながら、その主張は通らなくて、中学校単体で出来た。その後、小中学校統合整備計画策定委員会っていうのは、もう中学校が出来た平成 27 年以降は委員会に対する予算付さえもされていません。

残念ながら、小学校の統合についてはですね、放置されたままずっと来たっていうのが鞍手町の現状なのですよ。

今回、前町長が、いろいろなことがあって、私は立候補する際に、公約の中で小学校の適正な配置というものを謳って、住民の信を得て、負託を得て町長にさせていただいて、一期 4 年を過ごしました。

昨年の 9 月、改めて町長選挙。相手候補は前教育長というところでの選挙になりましたけど、厳しい選挙ではありましたが、改めて、信任を得て、今また町長をさせていただいております。

その中で、ずっと教育の特に、小学校の統合については、先ほどから言っていますけど、私の中には、ずっと私なりの思いもありますし、校舎をどのような配置にしたいとか、先ほど、図書館の話も出ましたが、いっぺんに図書館は出来ないけどですね。私も図書館は小学校のどこか敷地の中につくりたいという思いもあります。

あともう一つプールについても、今回、プールをつくるとすれば、鞍手町でプールをつくるのは、もう最後になります。恐らく、改めて別にプールをつくるということはないと思います。

それで、プールをつくるとすれば、このプールについても、町民の皆さんが利用できるようなところに配置をし、そして委託をして、町民の方たちと小学生が使えるようなプールをつくりたいというような思いもあります。

それはあの敷地ならば、私は可能じゃないかなと考えております。

さっき小学校の保護者の方たちの待機場所にしても、スクールバスの待機場所にしても、いろいろ考え方はあると思いますけども、私は三段の敷地の中で完結できるのではないかなと思っています。

まあそういった、小学校とていうのは、何度も言いますように、子どもたちの教育の場であり、6 年間で過ごすところであり、子どもたちの成長を促すところ

でもあります。いろいろな刺激を受けながら、子どもたちが6年間過ごすところだと思っています。

その刺激を受ける場所として、もちろん小中一貫っていうことは非常に重要なものだと思いますけど、先ほど、藤井委員からもありましたけど、地域の人とどう連携できるかだとか、また保護者の方たちとも含めてですね。そういった小中連携だけじゃなく、地域との連携、住民の方たちとの連携。今でも、小学校には地域の方たちが来て、授業してもらったりだとか、いうことももちろんあると思いますけど。そういったものも含めて、私は、ある程度のスペースが必要だと思っています。

と同時に一番、安全安心の面からすると、坑道があることが心配だということももう第一に皆さんのお話の中でも出てきています。

これは要するに、どう不安をとるか、坑道をどう安全なものにしていくかということに尽きるんですよ。

それが、今、不可能っていうことがはっきりしているならば、私は、安全安心の面から考えれば難しいということが言えるかもしれませんが、今、ただただやみくもに坑道があるから不安だ、危ない、安全安心が確保出来ないっていうような論調でしかないと思っています。

どういう調査をして、どういう費用がかかって、安全なものにすると、どういうようなことができるのかということは、今までの議論の中で一つも出てきてない。

ただ、坑道があるから不安だ、危ない、安全安心が確保出来ないということで、要するに、確固たる理由がはっきりした理由がない。

ただ、ただ不安があるという認識がないというふうに私は思っています。

町として、当然ながら、そこに小学校をつくるためには安全な場所にしていくというのは、これはもう当然の話でもありますし、安全なものにした上で、そこに小学校をつくるというのが前提になりますので、その不安は払拭した後、どうするかということになると私はそう思っています。

折尾愛真の話が出ましたけど、あれだけ整備をして利用してもらっているので、人情としても、心情的にも、それを取り上げるのは忍びないというような話もありましたけど、むしろ先ほどの安全安心の面からすると、そういう不安なところに、愛真に貸している。いつどうなるか分からない。それこそ掲揚台から落ちたという話もありましたけど。そういうところに、愛真に貸せたのかということもあります。

むしろ、そうならば、やはり安全なものにすべきでもありますから、これは町の責任として、あそこの場所を安全なものにしてから貸すという話になろうかと思えます。

あと、通学路の件についての1番最初の意見の中で、やはり子どもは歩いて登校すべきだというようなご意見ありました。私もそう思います。

私の体験として小学校の登下校のときに遊びながら、私の通学路の横には川がありましたので、笹舟をつかって友だちと笹舟を浮かべて、家に着く近くまでにどちらが早く流れ着くかみたいなことをやりながら、登校した思い出もあります。

そういった意味で、子どもが歩いて登校するという体験は、それこそ学校で、教育を受ける以上に、教育的価値があるかもしれないと思います。

それは、スクールバスをどういうふうに戻すかにもよるんですよ。

要するにドアツードアのように、それぞれ子どもをずっと拾って行って、スクールバスを戻すのか。ある時点まで子どもたちに歩いてきてもらって、そこからスクールバスに乗ってもらうというような方法も実はあるのです。

特に、子どもがどこにいるかということを見ると、歩いてくるところでも1人で登下校しないといけないところだったりというようなところも出てくると思います。逆にやっぱり歩いていくということは、先ほども言いましたように非常に大切なことではありますが、今の世情を考えると、むしろ、どこまで、どういうふうに戻っていくかということ、安全を確保できるかどうかということも、少し考えていかないといけないところもあります。

それで、前々回からお話ししたと思いますけど、集団登校ができるようなところについては、当然ながら歩いてもらうことも必要ですし、しかし、先ほど言いましたように、どこまで歩いて来てもらって、そこが集合場所にして、そこに、スクールバスに来てもらう。一斉に乗って、学校まで送ってもらうというようなことで、ある程度歩いてもらうということもできるんじゃないかなと思うのですよ。

それは、学校に向かって歩くだけじゃなくて、学校から遠くに向かって歩くこともあるかもしれません。例えば、そういうことだってあるかもしれないですから、どういうように、今、課題として挙げられているものを解決するかについては、そこに知恵と工夫が要ると思いますけど、スペースについては、どうしようもないものがあります。

それと、まちづくりの観点からすると、点をもう少し充実させたりというような観点はもちろん分かりますけど、まちづくりの観点からすると線よりも点を充実するというところもあるということですけど、やはり線を結ぶということも、どう大きくするかということもあれですけど、充実したものにするかということも考え方としてはあるのですよ。

もう一つ、ちょっと観点は少し変わりますが、先ほど総合計画、後期計画の話が出ましたが、その中には、前回にもお話ししましたように、やっぱり避難所という観点もしっかり書かれています。

特に今のように気候変動が大きく、今年、ここは余り雪は降りませんでしたけど、雪が降ったり。特に、地震については関東大震災から100年を迎えてというような特集があったり、南海トラフについては、30年の間に60%の確率で起こるといったような報道があったり。常に、どういう災害が起こるか分からない中で、

避難所の確保というのは町としては大きな命題でもあります。

それは、小学校は避難所の拠点というような位置付けもありますので、そういう面からにしても、点に集中させるというよりも線として少し離れたところで小学校を設置するというのも考えの中では、あってもいいのじゃないかなと思います。

先ほどから、多くのキーワードとして、やっぱり小中連携という言葉も随所に出てきています。小中連携が、距離が近いと時間も短くて済み、先生方も教えやすいという話がありました。遠いと時間がかかって無駄な時間になるというような話で連携がとりにくいというような話がありました。

全く連携がとれないっていう話は出ないし、カリキュラムの作り方によって、どういうカリキュラムをつくるかによって、無駄な時間を省くということも私は考えることができるのじゃないかなと思います。

中間市の話として、教育長からもお話がありましたけど、どれぐらいの距離かというのは全然承知はしていませんけど、連携が全く取れないぐらいに離れた距離というふうには私は思えません。

利便性の観点からいけば、当然、南小が近いからいいということでしょうけど、それ以上に今までのお話をさしていただいたメリットのほうが大きいし、まちづくりの観点からしても、今後、いろいろな施策の中で敷地なりが活用できるというふうに思います。それは小学生にとっても決してメリットのない話ではないと思っています。

ですから給食センターも、私自身ずっと併設をしてランチルームをつくって一堂に会して食事ができればいいのじゃないかなと、そういうふうに思っています。

先ほど出てきていますように、給食のおばちゃん顔と顔を合わせながら熱いものは熱く、冷たいものは冷たく食べられるように、そこに簡単なカウンターなりがあって、そこから小分けにして各クラスに持っていくのか、そこに並んで給食を、それぞれ自分でセルフサービスのようやるのか。小学生だと、なかなかちょっと難しいでしょうから、それぞれ、各クラス、テーブルを囲んでということになるとは思うのですが。そういうランチルームっていうのも私自身は考えています。そういう有効面積をとると、ほかにしわ寄せが来たりもするので、そこがまた校舎をつくる際に、いろいろな工夫が必要になると思っています。

総床面積として、9千平米ということが、今のところ計画のなかにあるようなので、そういった面積の中で、どう工夫するかということだと思います。

全てが一体的というと、光陵小学校を例にとって言われていました。私も、一体的なものがいいと思っています。

その一体の形がどういう形にするかというのも、やっぱり、南小の面積の中で、先ほど言いましたように、段差のある面積、約1万6、7千ぐらいかなと思うのですが。その中に本当に入るのかなとは思っています。

上の段は今日見ていただいたように運動場になるということでもありますし、

運動場としてはスペース的にはいいかなとは思いますが、保護者の待機場をどうとるかとか、出入口をどうするかとかいうような問題も出てくるかなと思います。

そういった意味で、私自身は以前から北中跡地の広い面積をいかに有効に使うか。

ただただ、安全なものにするというのは大前提の話です。

安全なものにした上で、どういう校舎をつくり。どういう校舎をつくりたいというのも私のイメージの中にあるのですが、それにはあの面積が必要なので。

安全なものは前提にした上での私の考えではあります。

○山田教育委員

町長さんが北中跡を安全な土地にして開発したいと。本当に素晴らしい考えだな。それは絶対必要だなと思うのですよ。

時間が限られ、令和9年度というところでした時に、もう、今、室木なんかすごく、3学年複式だし、将来、古月だとか、ほかのところで複式があるので。

最初、私が聞いて時に令和8年度から再編するって話を聞いていたのですが、それは間に合わないから令和9年度になったじゃないですか。

それが今のように、土地を調査しなきゃいけないでしょう。そして、もし坑道があったら潰したり、そういう計画を立ててすると、とてもじゃないけど令和9年度に間に合いませんよね。

もう10年度、11年度って、どんどんどんどん下がっていくと思うんですよ。それにかかる費用と、時間と、それを考えたときに。町長さんが理想とされていることはすごくいいなと思うのですよ。私も、町全体を再開発するときに、1点集中じゃなくて少しこう広げていきたいってところの思いもすごく分かりますけど。まだ、道もそんなに通ってないし、再開発したいって思いは分かりますけど、限られた時間の中で、そこをより有効な学校を建てていくとなったら、もう南小しかないのじゃないかなと。

いつ建ててもいいですよとかいうのであれば、どうぞ調査されて、整備が必要なら整備されて、その整備にどのくらいお金がかかるかとかいうのも出さないといけないでしょう。

そういうのをしたときに、もう時間がどんどん過ぎていって困るのは結局子どもや先生たちなんですよ。今の条件の中で、やっぱり最善と思われるのはやっぱり南小かなと。

広い土地は確かに魅力的です。それが、安全な土地であれば本当にいいなと思いますけど、でも、私が鞍手町の教師で働くとしたら南小の環境はものすごく魅力的なんですよ。周りの環境が。いろんなところに体験で行こうと思ったら、公民館もあります。それから大きな商業施設もあります。それから、中央公民館に図書室があるし博物館もあるし。いろんな環境が揃っている。だから、いろんな

体験連れて行くにもちょっと歩いて行こうかってなるけれど、北中跡であれば、絶対バスを使わないといけないんです。もうバスを使って、本当に煩わしいっていか、さっと思いたいなと思ったときに出来ないのですよね。より豊かな体験活動させようと思ったら、その周りの環境というのはすごく大切だなと。

いずれ、北中跡が再開発されて、何かそういう、何かいろいろと子どもたちが楽しく行けるような場所になるかもしれないけれど、それはもうあと何年先のことなので、私はちょっと想像出来ない。

本当に令和9年度にしてほしいんですよ。1年遅ければ遅れるだけ、先生たちも大変だし子どもたちもです。

限られた中であるってということになると、もう南小がやっぱり最善じゃないかなと。お金の面でも1番それがいいんじゃないかなというのがあります。

町長さんが、南小の中でどんな校舎が今言っているような、どういうふうに盛り込まれるか。まだちょっと想像が出来ないのであれば、そういう資料が教育委員会の方にあるのであれば町長さんにお見せていただいて。

ちょっとお金の計算はもう全く出来てないわけでしょう。坑道をするっていうことに対しての。

○森永教育課長

坑道の整備についてはできていないですね。

○山田教育委員

南小をこういうふうにしたらいいなという構想はないのですか。体育館とかプールとか、それから給食センターとかを、今の土地でできるかどうかのシミュレーションみたいなのは。

○森永教育課長

候補地選んだときに、3候補地最初出ていたと思うんですけど、3候補地に対して、こういう形でというのは、シミュレーションを出して、それで協議を皆さんに。

○山田教育委員

それは町長ご存知ですか。

○岡崎町長

一応知っています。

○山田委員

そしたら、その土地の中でも、それなりにできるってことは。

○岡崎町長

具体的な話が幾つかあるのですよ。

駐車場は、建物を建てる場所が決まってからじゃないと駐車場ができないとか、そういうようなものがついてるんですよね。だからもうやってみないと分からないっていう話になっているんですよ。南小の場合。

○山田教育委員

南小でも近くに駐車場何ぼでもあるじゃないですか、中央公民館じゃないけど。広い土地が幾らでもあるから、駐車場の問題はそうでもない。

○岡崎町長

1番はやっぱり保護者の待機場ですよ。

○山田教育委員

待機場もあそこなのですか。私はこの前の研究発表会があったときに、南小学校に行ったんだけど、全体会が中学校だったので、中学校に停めないで、あその駐車場に。ちょうど真ん中だから。あどこから南小まで歩いていくと本当近いですよ。ずっと歩いていけるし。

今度、校舎がこっち側になれば、なおさら近い。

○岡崎町長

いや、要するに、毎日の送迎の話ですよ。

○山田教育委員

毎日ですよ。まずそこに。

○岡崎町長

恐らく保護者はそうしないでしょう。

○山田教育委員

スクールバスがあるから、そんなに保護者の送迎ってあるんですか。

○外園教育長

朝早く出なくてはいけない家庭もありますから。

○都甲教育委員

乗り遅れる子もいるのですよ。

○外園教育長

だから、入り口のところを広げて、山を削ってやれば、保護者は降ろして戻るということは可能だと思います。

○都甲教育委員

南小は入口が3か所あるのですよね。結構分散して入っているのですよね。ここで降ろしたり、待っていたりする車もいるのですが、こっちにもこっちにも、振り分けている感じかなと思います。

○岡崎町長

恐らく、6校の子どもたちがそこに来るわけですから、今日回ったところの道をぐるりと保護者の人達の送迎の車で囲むようになると思います。

恐らく、いつも出入口って書いてるところだけじゃなくて、さっき言ったように、北側の階段のところは道路が狭いですし、要するに西側の当時最初から正門だった上り口ですね、竜馬のところ。あそこも道狭いですし、いずれにしてもその周辺は、北中の周辺よりも道路狭いんですよ。今日、行って見てもらったから分かると思いますけど。

それに、今言われるように必ず送迎はあります。南小に来て送迎の恐らくそれ以上にくるのは間違いないですよ。

さっき言われるように、乗り遅れた子、なかなか学校に行きたがらない子を送って行ったりだとか、というようなこともあるでしょうし、それが、同じ時間に集中するかどうかは別にして、かなりの送迎が恐らく考えられます。

だから、上に上げてですね、ロータリーで回れるようなところがあればいいですけど。

○都甲教育委員

ロータリーにはしないと絶対無理だと思うのですよ。

○岡崎町長

上がり口と下り口は別にしないとですね。

○都甲教育委員

鞍手中が入って行って職員の前の駐車場に入って、子どもを降ろしたり乗せたりして、戻る形になっているのですけど。

○岡崎町長

だから登り口が北中は二つあるからですね。あれを一方通行にすれば上がり口と、下り口は別になります。

○外園教育長

ただあそこは鋭角になっているので、真っすぐの道をつくり直さないと。今の道をそのままというわけにはいかない。

○岡崎町長

子どもをずっと送迎していたので。自分も。

○都甲教育委員

北中時代は上がってなくて、下で待っていました。上がっちゃいけなかったのじゃないですか。

○岡崎町長

いや、自分は上まで上がっていました。部活で夜遅かったのです。

○藤井教育委員

町長、いいですか。

北中いろいろ調査したり、いろいろ、歩道を作ったりとか、坑道があるところっていうところはボーリングか何かをして調べるのですか。

○岡崎町長

はい。もちろん。

○藤井教育委員

これは費用が相当かかるのじゃないですか。

○岡崎町長

1千万円ぐらいはかかるでしょうね。

○藤井教育委員

それと、今、言われていた西区の近辺の歩道とか全部整備するんですか。

○岡崎町長

整備します。

○藤井教育委員

整備して、それで学校建てるのですか。

○岡崎町長

はい。

西区の歩道整備についても、今計画をしていますから。

○藤井教育委員

町長が今日言われたのは、猪倉からの通りでしょう。

○岡崎町長

はい。

○藤井教育委員

こっちの通りはしないのですか。

○山田教育委員、都甲教育委員

郵便局からの。

○岡崎町長

西側ということですか。

○藤井教育委員

それまでするというのは、期間が相当かかるでしょう。

猪倉からこっちを整備するのは、それは1年2年では終わらないでしょう。

○岡崎町長

それはそんなにかからないですよ。

○藤井教育委員

考えると、今まで鞍手町が道をいろいろしているけど、そういうのは簡単に出来てない。

○岡崎町長

それこそ役場の場合は、病院の前が整備しているじゃないですか。

○藤井教育委員

それと、もうお金は町長がいくらでもかけていいと言われるのならそれでいいですよ。鞍手町は金がないといつも町長言われているでしょう。

私はお金を使わないで、さっきも言いましたけど有効な学校をつくってもらいたいというのが私の考えです。これ一つ言っておきます。

それと、今言うようにスクールバスの件はですが、これは文科省が学校をつくったときの、どこまでは子どもたちを歩かせないといかんですよという決まりがありますね。

恐らく学校つくったらその周辺というのは、子どもたちをどう歩かせるかっていうのは、我々も一生懸命考えないといけん。どうするか。これは町長以上に私達は頭痛めないかんですよ。それは。

それで、それをここに停めて乗せるとか言われているけど、そこまで親がどうするかを考えないといかん。これは急に決まるわけではないと思います。時間をかけないといけないと思いますよ。

○岡崎町長

スクールバスの廻し方にもなるのですが、どういうようにバス停毎に停まっていくのか。どこを乗車場所にするのか。要するに、これも道路交通法上、そういうスペースがないと出来ないのですよね。どこでも止められないし。

○藤井教育委員

それもやっぱり、はっきりしておかないと。学校つくるために、はっきりしておかないと。

○岡崎町長

これは、南小につくるのも同じことなので。

○藤井教育委員

それで、そののどこあたりも出してもらわないと。

○岡崎町長

それはどちらにしても、南小につくるにしても、北中後につくるにしてもスクールバスを廻すので、どこにするかっていうのは、どちらにするにしても必要なことです。

○藤井教育委員

避難場所の件を言われていたけど、1校にしてしまうと、あと5つの小学校が空くわけですよ。それをどういう形で避難場所にするかを考えたほうが早いじゃないですか。

仮に南小学校にすると、そこに全部集まってと言っても集まりませんよ。

私はこの前の話でも行ったのですが、自治公民館をどういう形で避難場所にしていくかのほうが早いじゃないですかと。避難場所というのは、そう頭痛めなくていいじゃないですか。

○岡崎町長

自治公民館が、耐震性がある公民館なのかどうか。そこに何人が避難できるのか。そういうことも必要になってくるのですよ。

自治公民館で、そんなに広いスペースを持っている自治公民館は少ないですよ。

○藤井教育委員

避難訓練とかいろいろやっていますね。あれはやっぱり地域で一生懸命を考えてやってもらったわけですよ。やっぱり、そういうものは有効に使わないかと私は思っているんですけど。そういうものを考えてもらえばいいですけどね。

それと、要するに町長が言うのは、どうしても、いろいろな面から見たら、そういう安全対策を立ててしまって、北中跡に建てたいというわけですね。

○藤井教育委員

今、民主主義だから、多数決でいくとしたらどうします。場所をここにしたいと皆さん方が言ったら、どうします。

○岡崎町長

皆さん方というのは、どの皆さん方。

○藤井教育委員

やっぱり保護者も聞かないといけないし、学校の先生たちも全部聞いてみないといけないし。やっぱり鞍手町はここに小学校建ててもらいたいという意見が強かったらどうします。

○岡崎町長

それこそですね、民主主義というのは当然の話ですし、そこで賛否を問う。賛否というか、誰を賛否を問う人にするかという話もありますよね。

例えば、全町的にとるのか。各小学校の保護者でとるのか。民主主義を最大限に生かすとするれば、どういう形がいいのかというのを考えないといけないですよ。

少なくとも、私は、先ほど言いましたように、選挙を経て、住民の信を問うた中で、民意を得て付託を受けています。

そういった中で、今、町長をさせていただいて私の考えを述べさせてもらっているわけで。ある意味、民主主義の中で、私が選ばれた中で付託を受けているのですよね。

○藤井教育委員

町長のいわれることは分かります。町民の皆さんが推してくれたから、町長で

立たれた。それでその人たちの全体的には意見を聞く間がないでしょうし。その中の何人かが、小学校をあそこに持ってきたいという話が出とったのですか。

○岡崎町長

全然、誰に聞くとか、彼に聞くとかということじゃなくて、先ほどからずっと話をしているように、私が議員のときから、このことについては、ずっと自分なりの思いがあって、そして議会の中でも一般質問をしてきました。

だけど、なかなか教育委員会としては、先ほども言いましたように中学校をつくった後は全く動いてないのですよね。要するに、策定委員会がありながら、予算さえもつけてない。

委員会としては全く、小学校の統合については放棄しているような状態がずっと続いていたのです。

そして初めて、私は、繰り返しになりますけど町長選挙があって、そのときに初めて、公約として小学校の適正な配置というのを謳って選挙しました。

そのことについて、10月だったか11月だったか、もう委員も覚えていると思いますけど、1番最初に総合教育会議があった際に、公約で、議題には上がっていませんけど、町長が公約で小学校の適正な配置というのを公約として挙げているけど、どういうつもりだと。実際にするつもりがあるかどうかというのを、委員さんから問われました。

だから、私は公約があるのでやりますというようなことで話をして、どういうやり方をするというようなことを聞かれたの、それこそ民主主義じゃないですけど、各小学校をまわって保護者の意見を聞きたいというような話もしたと思うのですよね。

そしたら、どこからまわるのですかと聞かれたので。室木小学校から回りたく。そしたら、挑戦的ですわねというように言われました。

室木小学校は1番、住民の方たちの思いの強い場所ですよ。そこにまず行って統合の話をするのですかというようなことを言われました。

だからこそ最初にそこに行くのですよ。そして自分の思いを保護者の方たちに伝えたいというような話で総合教育会議は終わり、あと町P連の役員さんたちも話をしたいので、教育課だとか学校のほうにも話をしてほしいってことだったのですが、ちょうどコロナになったりで、行けないということでアンケートをとろうということで、保護者全員にアンケートをとると。こちらのほうで、教育課のほうでは一端アンケートをつくったのですが、町P連の役員さんたちが自分たちでアンケートをつくりたいと。それで、保護者の方たちがどういう思いがあるかというのを聞きましょうということで、町P連の方たちがそういう思いがあるなら、そちらのほうでつくってアンケート調査をしましょうということで。特に、直接話を聞けば、やはり発言できる人、思いがあっても発言出来ない人、声の大きい人、そうじゃない人、いろいろあるので、アンケートのほうの方が適切だろ

うという話もありました。

それでアンケートをとった結果、やはり多くの人たちの中で統合が必要だというような意見もありましたから、それで進めようと。と、言いながらそれでもなかなか進まなくて、あり方検討委員会ができるまでに2年かかっているのですよ。

だからなかなか私の考えを教育委員さんの方たちに受け入れてもらうまでに本当に時間がかかりました。だけど、私はもう必要だと。

特に私は最初から北中につくるべきという思いがあったのです。

それでずっと、私は、町P連の方たちにはいろいろお世話になりましたけど、やっとな教育委員さんにも認めていただいて、あり方検討委員会ができた経緯もあります。

そのときに、最初から私の思いを、最初から出すということも、いいのじゃないかって言われたこともありました。

だけど、先ほど委員が言われたように、私の思いを最初から出してしまうと、町長の思いだけで進むということも危険性もあったので、それは控えておきますと。

まずは、あり方検討委員会の皆さんで議論をしてくださいということで、私の思いは出さずにあり方検討委員会の自主性に任せて、今まで来ているということなんですよ。

結果的にはあり方検討委員会の方達は本当に真摯な議論をしていただいていると思いますし、様々な議論があったとも聞いています。

結果的には、なかなか3候補地を一つには絞れないということから、いろいろなメリット、デメリットを出しながら、その中で町当局とまちづくりを考えながら、答えを出してくださいというのが、第3次提言の趣旨だろうと思います。

その中で、附帯意見が4つほどついて、いろいろな委員さんたちの懸念材料となっているものが、附帯意見の中についている。

それは安全安心に関わるものが大半で、その中に、先ほど送迎の話もしていますが、3番目にはそこのところ保護者の方たちの、送迎に関する心配事ははっきりと書かれているというように思います。

○藤井教育委員

それで町長、私たちが聞いてきたのは、あり方検討委員会を立てる前に町P連がアンケートをとったのは、これは統廃合をどうするかというアンケートですよ。

○岡崎町長

だけじゃないですよ。中身見てもらったら、統廃合について答えを求めるようなアンケートでなくて。

○藤井教育委員

小学校をどこに建てたほうがいいのかのアンケートはとってないでしょう。

○岡崎町長

それはもちろん。

○藤井教育委員

私が言うのは、その場所をアンケートとして、それを町長が活かして、こういう判断をされたのかなということをちょっと聞きたかったわけですね。

それで場所的なものは、教育委員会と今日で3回目の対応をしましたけど、この中で、いろいろと我々の言うことを、町長がどう判断されて、場所的なものを町長が判断されるわけですか。どうなのですか。

○岡崎町長

だから、要するに、この総合教育会議というのは私と教育委員会とが協議をしたうえでというのが前提になっているじゃないですか。

特にそれぞれの権限がある中で、それを調整する会議だと私は思っています。恐らく、教育委員さんの皆さんには決定する権限と責任があると言われてますし、私については予算の編成と、学校を設置する設置条例を出す権限もあるわけで。

設置者は私なんですよ。設置者は私です。町長です。

だからそういうことで調整が必要だっていうことになるのです。

○藤井教育委員

それで最終的には町長が判断されるというのはもう十分分かっていますけど。今までのいろいろなやり方っていうのはありますけれど、最終的に判断されて町長がこういきますよと。

私は知りたいのは、町長はこの前も学校ごとにまわって意見を聞きたいという話をされたですね。これはいつされるんですか。

○岡崎町長

いやもうそれ時間的に出来ないという話なんで。

○藤井教育委員

いや今、町長が言っている、建てるのに調べたりなんかしていたら期間があるじゃないですか。私はそれをやってもらいたい。もう教育委員さんたちの話と、その人たちの話を聞いてもらって、最終的に町長が判断されるのだったら、私はそっちのほうがいいのかないかなと思いますけど。

○岡崎町長

それこそ前の時かに話したと思いますけども、住民の方たちが、多くの人たちが南小がいいというようなことであれば、私は住民から選ばれた人間でもあるので、南小でしましようというようには考えています。

だけど、そうじゃないっていうことであれば、それはそれとしてまた教育委員さんにも考えていただきたいと思います。

ですから、藤井委員が言われるように、最終的な民主主義なり、民意をどうやって取るかということ、先ほども言いましたように、1番最初からしたかったことです。私は1番最初から保護者の方たちに、皆さんに話を聞きたいと。どういうふうに考えていますか。私は、統廃合が必要と思っているけど、どう思いますかというのは、もう1番最初から聞きたかったのですよ。

だから、もうそれをしましようっていうならぜひともしたい。

○藤井教育委員

それを早くやってもらいたいんですね。

教育委員会では、大体話はまとまっています。大体皆さん方の意見を全部出してもらっていろいろ話して、教育委員会ではどれが1番理想なのかと。ある程度お金も使うところは使ってもらわないかんというのがありますけど、そういうものをまた町長にお願いせないかんというところまでいっています。

それでそういうことに対して最終的判断を町長はされるのですね。

○岡崎町長

もちろん。それをすぐに保護者の方たちの意見を聴取する場を、各小学校つくと。当然ながら。

○藤井教育委員

その日程は教育委員会が出すのですか。町長サイドでやるのですか。

○岡崎町長

町長部局が正しいのかどうかってというのは、その辺はちょっと、今、考えてどうなのかなっていう気はします。

先ほど言いましたように、設置する責任と権限は教育委員会にあるというのを前提とすれば教育委員会でしょうし。最終的な設置者は町長であるということであれば、最終的な設置場所を決めるということであれば、町がそれを。

○藤井教育委員

我々教育委員会は、お金のあるなしは分かりませんからね。町長がそれは最終

的に握ってあるからですね。それを出してもらわないかと。

そういうところあたりはちょっと私は分かりません。いろいろ質問しまして申し訳ないです

○岡崎町長

いやいや、こういう議論がやはり必要なんですよ。本当に、それぞれの考え方を聞いて議論して煮詰めて。それでなおかつAという意見、Bという意見、Cという意見がありながら最終的にそれを加味した中でどうするかっていうことが、ともすれば、鞍手町では私は少ないだろうと思います。

○藤井教育委員

私は時間かけても、町長が時間はかかってもいいという話をこの前されていたから、時間かけても、やはりそういういろいろな面を、意見を聞いていただいて、最終的判断をしてもらいたい。お願いします。

だいたい教育委員さんの方向性というのは分かっていると思いますけどね。

○外園教育長

時間は、かければかけるほど子どもたちが困っているんです。

○藤井教育委員

私はそれもう、教育長から聞きまして分かっているのですよ。できるだけ早くしてやりたいと思うのだけど、やっぱり物をつくるのだったら、ある程度時間をかけなきゃいかんというのはあるでしょうし、あり方検討委員会、もう2年間という時間かけてきたんだからですね、やっぱり。

○森永教育課長

今、お話されている中で、あり方検討委員会が、そのために立ち上げられているんじゃないのですかね。結局、小学校をどうするかっていうことを教育委員会の方に意見していただくっていう形で、各小学校、中学校、保幼、区長さんとか、アドバイザーさんとかに入っていて、その中で意見を持ち寄ってもらって、今の形になっているのが、あり方検討委員会からの提言という形にはならないのですかね。

○岡崎町長

だから、提言でね、最終的には答え出していないでしょう。

○山田教育委員、都甲教育委員

出ているでしょう。

○岡崎町長

どこだってなってない。提言は出ているけど、町当局と協議をして決めてくださいってなっているのですよ。場所を南小学校にしますとはなっていないでしょ。

○外園教育長

南小学校にすると決定はしていません。ただ、南小学校が一応最も高い評価となり、後は教育委員会の責任で、十分検討して決めてくださいというような。

○岡崎町長

いやだから、町当局と協議をしてとなっているのですよ。だからそれは、まちづくりのことだとかということがちゃんと入っているのですよ。

なおかつ、教育委員会の権限と責任というのがどこまであるかということなのですよ。

結局、それは総合教育会議の成り立ちというか、出来たことにもつながってくるのですが、最終的に要するに、さっきも言うように、設置者は誰なのか。要するに予算編成権はどこにあるということにもつながってくるのですよ。

○外園教育長

最終的な設置者は町長というのは十分分かっています。

ただ場所を決めるのは、教育委員会。法的にも決まっています。だから、最終的な判断は町長がされるということです。

○岡崎町長

そうです。

○山田教育委員

私は今まで教育委員会入ってないときに、あり方検討委員会で、まず、再編、統合するかどうかで、2校と1校とかもありましたよね。小規模校と。でも最終的には1校になりました。

町はすごく丁寧に、統合についての話合いがされているなと思ったのですよ。その、あり方検討委員会っていうのは、やっぱり民意の代表で、そこでの意見なのだろうとずっと思っていて、そのあり方検討委員会の結果が出ましたので、教育委員会で話合いをしました。

その出てきた思いが、たまたま町長さんとは思いが違ったので、ずっと平行線だと思うのですが。そこら辺、民意を大切にされるのであれば、あり方検討委員会の思いとか、教育委員会の思いというのは、町長さんは、汲み取っていただけないということですか。

○岡崎町長

いや、そういうことじゃないですよ。

○山田教育委員

もう幾ら話をしても、町長さんはもうこれって決めてあって、それを覆せるのは、例えば、一人ひとり、あり方検討委員会とか教育委員会とかそういうのではなくて、投票というか、アンケートというか、それでしか、その意見であれば、何か納得していただけるけど、私たちがいろいろ言っていることに関しては、町長さんの思いのほうが強くて、なかなか納得していただけないのじゃないのかなと。もう3回目ですけど、ずっと平行線なので、この会議は幾ら続けても同じかなと思います。

でも、それであれば令和9年度の統合というのは諦めて、それこそ各小学校区を回って、プレゼンというか。もう二択でしょう。どっちかを選ぶっていうのは、町民の方にお願ひする。選んでいただくということになるということ。

そのためにも、今のまま坑道があって建てますよというのであれば、多分、町民はなかなかそれには納得出来ないと思うので、不安なところを解決するために、どのぐらいのお金だとか、通学路もやっぱ安心安全が一番保護者は心配だと思うから、それがどのくらいかかっているとかそういうのをきちんと提示していただかないと。

○都甲教育委員

やりますだけではちょっと。具体的にどういうふうにやるのかというのが、やっぱり見えないと。

○山田教育委員

いつになったら統合するのだろうって思う。

○岡崎町長

だから、要するに坑道の件については、今の町有地としてあるわけですから、普通財産としてあるので、今、愛真には貸していますけど、それが安全なものではないというようなことのお話なので、もうそれこそ令和5年度の中でも、あれは調査をしようと考えています。

そして、その中で、どういう方法によって、あるいは、安全なものになるかどうかというのは、調査をすれば出てくるでしょうし、それがどれぐらいのお金がかかるかというのが出てくると思います。

ただ、それはもう令和5年度の中で、私はしようと考えていますので、例えば、北中跡につくるとすれば、今から基本設計なり、詳細設計をしていくことになりまますので、その間には、安全なものに1年間続けければなるだろうとは思っていま

す。

○山田教育委員

そういうふうに、そこが安全となっても、やっぱり南小が魅力があるっていうことになるかもしれない。それは町有財産なので、そこは、やっぱりきちんと再開発するんだったら絶対それは必要です。

坑道の件を解決しないと、あそこはもう何もない死に地みたいになるんです。今、愛真が借りてくれているから、もうありがたいというだけで。そこに学校が建とうが建つまいが、それはやっぱりしないと、何も活用出来ないですよ。住宅地にするにしても何にしろ、

○都甲教育委員

小学校を作るにしても作らないにしても、それはそれで必要だと思います。

○山田教育委員

そうだけど、小学校再編は時間が限られている中で、そこが、何で今頃こんな話しているのかなと、ちょっと私は不思議です。

北中が候補地として出た段階で、それはもう絶対必要最低条件じゃないですか。坑道のことをきちんと解決するというのは。

○岡崎町長

というか、要するに小学校の再編について、やっぱり教育委員会がリードして話し合いをする場をつくって、実は話をする場があったんですよ、先ほど言うように。小中学校の統合の策定計画、そういう委員会があったので、そこに予算付けつけて、委員さんがいたので議論していかないといけなかったのですよ。

○山田教育委員

それ何年前の話ですか。

○岡崎町長

27年です。中学校が開校したのが平成27年の4月で、だから27年の当初予算にはもうその検討委員会の予算さえもなかったのです。

○山田教育委員

でも教育長にしろ、課長たちにしてもそのときは教育委員会にいらっしゃらなかったわけだから。少なくとも今の課長さんたちになってからのあり方検討委員会も、やっぱり令和9年度に向けてということで、一生懸命されていると思うんですよ。

○岡崎町長

係長でいたのですよ、森永係長は。

○森永教育課長

27年はいました。係員でですね。

○岡崎町長

27年の4月から係長になったのじゃないと。

○森永教育課長

いや、統合したときは、大野さんがいらっしやったので。

○岡崎町長

調べたら係長になっているよ27年4月から。

○森永教育課長

前年度まで予算をつくったのは前の係長になるので。

○岡崎町長

いずれにしても教育課におったんやけ。

○山田教育委員

でも、なってからは一生懸命それに向けてされていて。
過去のことはあれなので。

○都甲教育委員

でも今はもう、どんどんそういう先のこと話をしないと。やらなかったことを今言ってもしょうがない。だからもう、するということと。

○村岡教育環境整備係長

すいません。ちょっと言いたいんですけど。あり方検討委員会、今自分の係に令和3年の4月に配属して、町長がさっき言われたところの、最初自分の意見を出さなかった。それは、町長が言ったら町長主導の話になってしまうから言わなかったとおっしゃられたと思います。

正直、統合するかしないかは、町長が頑張られたアンケートの中で、これはもうみんな統合したらいいなと思っているなと思っていたので、もうそれで始めてもいいんじゃないかなと思っていたけど。

そこから先どこにするか、何校にするかっていうのはやっぱり民意を聞いてい

かないと、いけないのじゃないかなってというのは、その席に座ったときに思ったんですけど。

そうやって町長が意見を出さずに、民意を集約するためにあり方検討委員会というのは、さっき課長が言われたとおりですけど、一生懸命、民意を集約していくってことが、自分の仕事だと思って進めてきました。

もちろん委員さんとしては、例えば南小だっていうのは附属機関としてですね、決められない。そこまで重いことは出来ないから最終的に決めてくれということ、確かにこことは決まってない。

ただ、点数づけの優劣はつけていただいたし、そこに対して全部意見をもらっているし。仮に、その意見を受けて決めてくださいと、今、教育委員さんたちが話をして、皆さん、教育委員会としては南小のほうがいいのじゃないかと、その理由も小中一貫からいろんな説明をしてくれたと思うのですけど。

もし、町長が北中のほうがいいと思われて、仮にもし、全部回って小学校に聞いて、そこで、仮にですよ、北中の方がいいってなったとして、自分はならないのじゃないかと思っていますけど、なったとして、そしたらもうあり方検討委員会の意味とかないですよ。

○岡崎町長

そうじゃないやろうね。

○村岡教育環境整備係長

でも、あり方検討委員会で集約していった意味ってというのはちょっと。

今、町長が北中がいいと思われているのは良く分かるんですけど、今言うのだったら最初に言うべきだったと思うし。それを町長主導にしたくないから、あり方検討委員会で意見を集約したのですよね。

今、町長が北中と言っちゃったら、町長主導になるんじゃないですか。

○岡崎町長

いや、あり方検討委員会もね、はっきり南小と答えを出してるなら分かるけど、結果的に、1番最初からあり方検討委員会は、最初から、決定するには重過ぎる、私たちには出来ないというような話が前提で、あり方検討委員会が進んでいたというふうにも思います。

○村岡教育環境整備係長

最初はですね。少なくとも、今年度の最初は、私の説明もそうですけど、ここと決めるつもりでいました。

ただ、途中から附属機関として、多分、中学校の統合も議事録でしか見てないので、かなりプレッシャーをかけられたりですね、委員さんが地元のPT

Aの方から何かこういういろいろ言われたりとか、でも、タイムリーに門司の小学校の、今うちで言ったらあり方検討委員会の会長ですけど、門司の小学校の統合の会長さんが脅されたと。そういったこともあっているから。

委員さんの中にはいました。ここと決めたいっていう方もいらっしゃったんですけど、それはやっぱり附属機関はそういうものでもないしということで、ああいう形をとる形になったので。

さっきちょっと山田先生が言われていたことになるかもしれないですけど、あり方検討委員会の民意が確かにここと決めていないですけど、優劣がつけられて、こういう意見があって、こういう不安があるという意見が出た。教育委員さんたちがいろいろ話して小中一貫の話、いろんなことで南小のほうがいいんじゃないかと。その意見を踏まえて町長が、北中と言っている感じがしないんです。町長は北中がいいから全部ほかの意見を聞いてないように聞こえる。

そしたら、あり方検討委員会の議論。教育委員会の議論は意味がないじゃないですか。

○岡崎町長

いやいや、全然。それは村岡係長の感覚がそうなのかもしれないし。そうなんでしょうけど、いや、決してそういうつもりもないし。

○村岡教育環境整備係長

でも、今、教育委員さんたちがいっぱい言ってくれたじゃないですか。あり方検討委員会の意見を積み上げて。それ、町長の心に届いてるように見えないんですよ。

○岡崎町長

いろいろと議論しながらね、優劣を考えながら、将来のことも考えて最終的には、どこがいいかということは今議論しようわけやけ。

○村岡教育環境整備係長

それを、みんなに全員に聞いて、その結果で判断するのだったら意味ないじゃないですか。あり方検討委員会でどう言ってたって、教育委員会でどう言ってたって意味ないじゃないですか。それが関係するんですかね。

○岡崎町長

これ、逆に言うと、町長の立場としての総合教育会議も必要ないし、教育委員会が決定したらそれで何でも流れていかないけんのかっていう話よね。

町長の意見は無視していいんだと。

○村岡教育環境整備係長

いや、無視するつもりは全然ないんですよ。

○岡崎町長

いや、町長の意見はこうだけど、私たちはこうなんで、これでいきますという話やろ。

○村岡教育環境整備係長

いや、これでいきますじゃないですけど。

もしそれで、最終的にみんなに聞いて、その二者択一みたいな感じにして、みんなが言ったところに決めるっていうのは、みんなの意見を出し合って、A案、B案、C案のいいところを話し合いながら1番いい案を選ぶっていう方法に見えない。

町長は北中がいいのもよく、今まで何回も聞いているので、思われているのは伝わるんですけど。さっきの話では小中一貫は遠くてもできる。カリキュラムでできるということも言われていたと思うんですけど、本当にこう比べてくれたのかなと。穿った見方をすれば町長が北中がいいから、遠くても出来ますと言っているように聞こえるんですよ。

もっと、そこに根拠があればいいと思うんですけど。教育委員さんは言われてましたよね。何で近くがいいのか。どういう体験をしたから近くがいいと思ったと。

説得力というか、実際は違うかもしれませんが。受けた印象としては。町長は北中がいいと思われたと思います。思われたんだと思いますが。それはいいと思うんですけど。それを教育委員さんたちの意見を聞いて、考えてみたけど、やっぱり北中がいいなと。

遠くても小中連携は今の時代だと何とかなると。そこの、説得力というか、私が聞いていると教育委員さんが言っていることの方が説得力があるように聞こえるんです。

○岡崎町長

いや、だからね。それは教育委員さんとしての考え方。小中連携はこういうもので、教育的効果があるというような話をしているけど。だけど、それを上回るものがあるんじゃないかなっていうのは、自分は思っているし。小中連携自体が、今の小学校の課題解決の全てなのかっていう思いもある。

本当にそれで、例えば、不登校がなくなるのか。多様性のある子どもたちを教えることができるのか。そういうような解決策に、小中連携が全てなのかっていう思いもある。

○村岡教育環境整備係長

それは否定ですよ。それを否定したときに町長はどうしようと思うのかなと思うのですよ。

○岡崎町長

自分は校舎の中で、そういうことは可能やと思っているし。

○村岡教育環境整備係長

その方法論に説得力を感じないのですよ。

○岡崎町長

まだどういう校舎をつくろうということも話もしてないし、今、小中連携ということだけで、小学校と中学校が近いということだけが、全てのような形になっているわけよね。

それが小中連携にとっての1番優位性があるということになってるやん。

時間が短い、いい連携がとりやすい、周辺にいろんな施設が、ということで南小がいいということになっているわけだけど。だけど、それは教育的立場からはそうかもしれないけど、保護者の立場からどうなんかっていうのもあるのだけど。

それはもう要するに、あり方検討委員会で議論したというけど、最終的にはあり方検討委員会は結論を出せないまま、最終的には教育委員会と町の方で話し合ってくださいと。決定権はあると書いているよ。もちろん。教育委員会にあると書いているけど。

○藤井教育委員

町長は、そのあり方検討委員会に、どこまで検討してくとということには言ってないでしょう。

○岡崎町長

それはもう、あり方検討委員会の要綱に書いてることですよ。

○藤井教育委員

皆さん方に町長の思いが、どこまでやっってくださいよという思いが伝わっているのか私もよく分からんからですよ。

○岡崎町長

それこそですね。それは町長部局であり方検討委員会を設置するなら、それはそれとして話としてはあるかもしれませんが、あり方検討委員会は、教育部局であり方検討委員会はつくっているわけですよ。それは、この設置の第1条に

書いているので。

○藤井教育委員

実際的には町長が教育委員会にあり方検討委員会のそういう立ち上げから何からやっってくださいよというのは、町長が任命されたわけですよ。

○岡崎町長

もちろん、もうそれこそさっき何回も繰り返しになりますけど、そこに行き着くまでに、もう町長になってから2年かかったんですよ。

本来ならば、こうやって検討委員会を立ち上げましょうと言ってすぐ反応してくれればよかったけど、なかなかそこに行き着くまでには、むしろ教育委員会としては消極的な立場の方が多かったように感じます。

それでまた繰り返しになるけど、町P連の人たちも巻き込みながら、もうどうしてもこういうことが必要だということを、外堀埋めながら2年かけて、あり方検討委員会をつくっていったのですよ。

だから、むしろ当時は、当時も藤井委員いらっしゃいましたけど、教育委員会としては、統合自体には本当に消極的。もう、何で今頃ということをやささちよと言われましたけど、もっと早く取り組みたかったのですよ、自分自身は。

これは、もう本当に何度も言いますけど、議員のときからずっと思っていました。27年に中学校が終わって、何で予算もつけないで、委員会の立ち上げもしないで、そのまま放置していたのやろうかと。

本当なら、こういうことになってないし、建設費だって60億もかからなくて済んでいるんですよ。本当は30億なり40億ぐらいで当時だったらできるんですよ。

だけど、それがずるずる遅れてしまって、今になって、これもう約60億ぐらい建設費がかかるようになっていきます。

それは、坑道云々のことがもちろんあるかもしれませんが、それ以上に費用かさむようになってしまったんですよ。もう残念でしょうがないです。

○藤井教育委員

町長さっきから中学校のこと言われているけど、あれは教育委員会はタッチしているのですよ。私は教育委員長として皆さん方の、学校の先生もいるし、保護者の方もいろいろ聞いて、中学校をどうするかという話を、それから進めていったのですよね。

最終的には教育委員会の意見を、そのときの町長がOKされて。

○岡崎町長

町長の考え方と一致していましたから。町長が、むしろ最初からもう2回目の

委員会の中で、あそこにしようというようになっていましたからね。

当時それこそ、今も学識経験者に来ていただいていますけど、先生は怒ってから、俺はおらんでもいいじゃないかっていうようなぐらいになっています。

この委員会の中で場所が決まるのなら、自分はいらぬ必要ないだろうということ発言されています。委員会の中で。

○藤井教育委員

それは私たちは聞いてないけどですね、聞いてないと分からんけどですね。それは、町長はそのときは議員さんでいたからね、内容的には分かっているでしょうけど。

我々が中学校を立ち上げていくっていうのは、いろいろ面からいろいろ時間をかけてやっていったからね。

最終的には私はそのときに判断したのは、我々の意見を町長がのんでくれたのだなと私は判断していましたけどですね。

○岡崎町長

むしろ、自分からすれば町長主導だったと思っていますけど。

○藤井教育委員

そういうことで、町長が判断されるというのはされるのでしょけど、いろいろなものをもうちよっと、いろいろ意見を聞いていただいて、それで最終的判斷するという形をお願いしたいと思います。

教育委員会の意見はだいたい町長分かっていると思うけど、教育委員会はそういうことで進んでもらいたいと、町長をお願いしたいということですからね。それも十分考えていただいて、判断していただくと。

○岡崎町長

少なくとも、今、どこの自治体でも、この小学校、中学校の統合については、ずっと議論し、ある程度、義務教育学校であったり、連携であったり、いろいろと、筑豊地域の人口減少地域についてはあっています。

小学校1校であったり、例えば、嘉穂であれば、嘉穂小学校。宮若であれば光陵小学校はもう、小学校単体で出来ているところもあります。

それぞれの地域の中で判断されてつくっているっていうように思いますけど、この学校の位置については、どこの自治体も大変な思いをして、決めているというようにありますし。場所は2転3転しているところもあります。一旦決まったけど、住民からの反対運動があつて、場所が変わつたと、そういうこともあります。

だからそういうこともあるので、藤井委員が言われるように、それはあり方検

討委員会が、そこの代表でもあり、住民代表でもあるので、それが一つの住民の意見じゃないかということもありますけど。逆に言えば、やっぱり、地域の方も交えて、本当に、どこがいいのかっていうのも聞く機会があっても私はいいと思いますし。むしろその機会があれば、それで南小学校ということがはっきりするのであれば、私は、当然ながら、その民意を尊重し、南小にしたいと思います。

○藤井教育委員

光陵小学校を建てたときに、4つの小学校をもってきたら場所がないと、スクールバスとかいろいろと検討をされているのです。それで光陵小学校をあそこに建てて。宮若に残っている小学校は北小だけなのですよね。これも小学校の校舎をどうしようかと意見が出ているのだけど、まだまだ検討余地があるだろうということで、今のところ手を付けていないということになっているのですよ。

子どもたちの数と町の状況ですね、そういうものを考えて小学校の統廃合を。

小中連携が一番良いというのはどこもわかっているのですよね。光陵小学校もそういう形でいいものを作ってやろうと前の有吉市長が話して、私も聞いています。

私も常に数十年前から小学校をどうしようと、私の頭の中にずっとありましたから。色々と見学も行ってきました。

それで、みなさんが喜ぶ学校をつくるのが一番いいと私は思っています。

やはり地域が小学校にどう関わっていくか、どういう学校を作ったら関わりやすいかを十分考えていかないといけないと思います。

私も何十年と西川小学校で子どもたちと種まきから田植えから稲刈りから餅つきまでやってきました。そしたら子どもたちも体験活動で変わるのですね。

そういう面からみると、私は南小が、関わりが一番やりやすいと思います。

それと、鞍手町は青パトが回っていますね。これは絶対無くしたらいけないですよ。これは安全安心のまちづくりのために絶対必要です。6小学校で、どうするかと会長とも話をしているけど。何とか継続してやらんといけんよと。

彼らの意見も聞いています。どこが小学校がいいのかと。やっぱり青パトで回るのだったら、小中の並んでいるところの方が我々は回りやすいと。離れたら厳しいという話をしていました。小学校と中学校が一緒にあるから回るのも回りやすいと。

そういうものを色々と考えてもらって町長に判断してもらいたいと思います。

○森永教育課長

あり方検討委員会の皆さんの任期も決定してもう決まっておりますし、それぞれの職務権限というのがありますので、昨日もあり方検討委員会があつて、その中で、まだ建設候補地決まってないのですか、ということで意見が出ていました。

なので、あり方検討委員会からは提言を、結局は投票による提言かもしれませ

んけど、南小が1番点数が高いですよ。ただ、こういうことをつけてくださいというのを、意見をいただいているので、それに基づいて、それぞれの職務権限、教育委員会があくまでもここですと。さっき、町長が言われたように、候補地決まったけど、あと2転3転して、場所変わっている部分もあるよっていう部分もありますので、そこはもう町長の職務権限ということで、予算に関することを執行することということで、町長の権限を持ってありますので、一旦もう、ここは教育委員会は今の話でいくと、場所はもう皆さん、委員さんの気持ちっていうのは変わらないっていうことであれば、一旦そこで決定をさせてもらって、町長のほうに1回出させてもらおう。

ただ、そこはやっぱりまだ町としては認められないということで、先のほうに行けないっていう形になるかもしれないかもしれませんが、そういう形でさせてもらわないと多分、先にも進まないと思うのですよね。

言われるように、その先の部分、例えば、アンケートをとりますとか、意見聞きますというの、一旦決定が出たから、やっぱりそうじゃないですと町の方が判断して先に進むっていう形じゃないと、今またこの段階ではずっとずるずるいくので。

一旦そういう形で、委員会としての回答という形は、出させてもらってもよろしいですか。

○岡崎町長

ということは、それを受けてね、町長部局の方で、各小学校回って意見を聴取するというようなことにするしかない。

教育委員会と離れて、町長部局の方で、町長が民意を聴取し、それに基づいて最終的に決めるということになるよね。

○森永教育課長

町がっていう形です。あくまでも教育委員会としては、今の段階ではもう決定するのかなと思いますので。

教育委員会としてはこうですよ。ただ町としては、方向性はちょっと違うという形で、一度かたをつけさしてもらおうというか、はっきりさせてもらって先に進んだほうが。

今の状態ずっと続けていけば、ずっと平行線で、時間がどんどん進んでいくので、そういう形で1回、教育委員会の方から、決定の方を出させてもらいたいと思います。

○岡崎町長

基本計画もそれで進めるということか。

○森永教育課長

そうですね。敷地の部分とかがあるので、一応、基本計画の中身が必要な部屋数とか、こういった学校というコンセプトということで、例えば場所が変わったとしても、同じコンセプトの中で動けるので、ある程度大まかなものはそれで作っていくしかないのかなと思うんですけど。

校舎の形とか、そういうのは、基本計画作った後、業者さんのプレゼンとか、そういった形でどんどん形は変わってくると思うので、場所が決まった後に、それに応じた形というのをプレゼンしてもらって。

例えば、北中跡になれば北中学校の土地に関して、こういうレイアウトをつかって、やりたいと思いますという提案を出してもらいますし、南小なら南小のそういう提案というので。基本計画、大まかな中身というのは、出来ると思うのですよね。

○岡崎町長

その中で、北中だったらこうなるというのは、もちろん入れられない。

○森永教育課長

そうですね。

○岡崎町長

入れられるのなら別に。要するにどっち側に決まっても、その基本計画を生かすということになるけど。今の話だったらもう教育委員会としては南小なので、それで進みますということだったら、基本計画も南小で作りますと。

私は住民の方たちに、それを聞いてみましょうと。住民の方たちの多くが北中がいいということになれば、私は北中がいいと思いますと。そうなったときに変わるわけですね。

○森永教育課長

それか、町長が言われたように、今は基本計画の業者さんと契約しているんですけど、契約の変更延長という形で、その場合はもう一旦敷地が決まるまでは止めるという形になると思うんですけど。止めて、契約だけは最後までその業者さんにしてもらわないといけないので、変更という形で。期間と金額が、例えば延びてその分を確保しておかないと、ということで多少の増加はお願いしますという話になるかもしれないんですけど。そういう話が出たときはそういう形でとれば、基本計画の方も最終的には決定は、どこでもできるのかなと思うので。

○村岡教育環境整備係長

今、課長が言われたのは教育委員会が結論出すから、南小としての基本計画を

つくるとか、そんなことは当然出来ないのです。課長が最初に言ったのは、場所は決まってないけどこんな校舎が必要だよと作っておいて。町長言われたかもしれないけど、場所が北中ということが決まったのだったら、それに合わせた基本計画に書いてあるのが最初多分言われたことで。次は、そこを保留しておいて、最終的にここっていうのが決まって、最終的に作り上げて契約延長して作り上げるということ。

○森永教育課長

基本設計という形で、どういった形の建物を建てる、どれだけの面積、何階建てで建てるのかそういうのはもう、基本設計の中で動いていける部分になるので。

○村岡教育環境整備係長

それこそ昨日のあり方検討委員会の中でも意見が出ていたのですけど。仮に、町長の合意というか。

○藤井教育委員

それの方が判断しやすいと思うよ、南小学校でこういう形で、旧北中学校ではこういう形で学校を建てるよというのにしとけば、判断はしやすい。

○外園教育長

課長が言ったように、もう4回ほど話合いをして、委員会ももう何度も何度も、臨時も開いて、そして、やはり委員会というのは、教育の立場で物を考えて見ていくのが教育委員会ですし、町長は町の発展とか町のことを考えていくのが町長の仕事ですから、それぞれ仕事の分担がありますし。今のところずっとやりましたけども平行線でありますので、課長が言われたようにとりあえず委員会としての報告は出させてもらって、あとは町長の方で判断されて、町民の意見を聞くなりですね。

先ほど、係長が言ったようにどちらでもできるといったらおかしいですけど、必要な部屋とか施設、そういったものはどっちにしても変わりありませんので、そういったところで進めていかないと。

とにかく、時間をかけなくちゃいけませんけど、かかり過ぎると、子どもたちに負の影響がありますので、可能な限り早く進めていただきたいという思いもありますので、そのところはよろしくお願ひしたいと思ひます。

○高橋総務課長

今日2時半から、もう6時近くになっているところで、教育委員さんの方の意見、それから町長の思いということも、皆さん聞かれたというところで、最終的には、教育長、教育課長のほうが言われましたように、教育委員会としてのあ

り方検討委員会の提言を受けて、そして教育委員会の立場として、町部局、町長に対して報告をさせていただきたいというところがありました。

先ほど町長のお話の中に、坑道の調査の部分とかもお話しされていまして、それを受けて、町長がどうされていくのかっていうのを次の段階で考えていかないと先に進まなくなってしまう。

令和9年度が、開校ですかね。どんどん遅れていくのも、やっぱり子どもたちのためにはよくないというか、できるだけやっぱ大人が子どもたちの環境を整えてやらないといけないというのが1番大前提になるだろうと思いますので、今後も教育委員会と町長部局が両輪になって、やっていかないと進まないというところですので、今後ともよろしくお願ひしたいというところで今日のところはちょっと終了させていただければなと思います。

○岡崎町長

さっき言ったように、私は各小学校を回って、保護者や地域の方たちの意見を聞きたいと思っています。

それはさっきも言ったように、町長部局の方で私が参考にするための一つの手段として、私の方でそれをしたいと思いますし、それを受けて、やはり住民が南小がいいということであれば、当然ながら、民意がそこがあれば、南小ということになるでしょうし、北中跡地が多いということであれば、再度、教育委員会の皆さんに、住民の意見はこういうふうな形で、北中跡地がいいというような話でしたということで、お話をさせていただくことになるでしょうし、動きとしてはそれを中心として動いていくということになるので、そのときは教育委員さんの皆さんにもご了承いただきたい。

○高橋総務課長

それでは、これをもちまして第4回総合教育会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。